親子のための災害対策事業

平成25年度市民活動公益事業補助金応募事業

NPO法人パートナーシップながれやま

親子のための災害対策事業　事業目的

乳幼児を抱えた流山市民

* 事業の対象

* 事業の目的
  - 主に乳幼児を抱えた市民に防災について啓発する
  - 防災に、男女共同参画の視点を活かし、男女ともに積極的に防災に参画することを推進する
  - 日常の防災に対する意識を高め、災害に遭遇しても安全・安心が守られ、減災につながる地域づくりに寄与する
  - 地域の自助、共助を進め、安心のネットワークの構築を図る。

これまでの取り組み

12/16	• 防災学習会1　講師:消防本部職員
1/17	• 防災学習会2　講師:防災危機管理課長
1/21	• 防災学習会3　講師:防災コンサルタント
5/9	• 防災体験学習施設「そなえりあ東京」視察
9/1～9/20	• 働くﾊﾟﾊﾟ&ママアンケート調査　(帰宅難民調査　回答数90)
9/7	• 内閣府主催「防災フェア2013IN六本木」視察
10/3	• 体験！子育て世代の減災ワークショップ実施（参加者数170組アンケート回収85通）
4/1～11/12	• 防災ノート編集会議（15回開催）
12月	• 執筆校正
1月	• 私にもできる防災・減災ノートIN流山発行

私たちが作りました！

子どもたちを災害から守る！
私にもできる防災・減災ノートIN流山

＜書込み方式＞
それぞれの家庭の使い方で、各家庭のマニュアルに仕上げてね！

メディアに取り上げられたニュース

減災フォーラム開催前

★1/21　広報「ながれやま」
★1/31　読売新聞
★2/3　朝日新聞
★2/25　東京新聞
★3/11　毎日新聞(予定)
★10/20、2/20　朝日れすか
★2/20　地域新聞
★1/13　まちの安心ナビ

減災フォーラム開催後

ぐるっと流山
コアラテレビ

さみうり　読売
2014年(平成26年)1月31日(金曜日)

流山のママが防災の手引

「子ども守る」9日にイベント

流山市の子育て中の母親たちで作る団体「流山子育てプロジェクト」が、小さな子どもがいる家庭での防災をテーマとした冊子「私にもできる　防災・減災ノートIN流山」を作成した。2月9日には、子育て世代を対象にした防災に関するイベントも開く。

冊子を作成した青木さん（中央）ら幹事メンバー

同プロジェクトは、市主催の男女共同参画の講座受講生らで設立した。冊子作成にあたって、防災体験施設を訪れ見学したり、親子を対象に防災に関するワークショップ（体験型講座）を開いたりしたという。

冊子は災害発生時の対応や備蓄品、家庭での部屋ごとの危険ポイントなどについて解説している。▽揺れを感じたら子どもの頭を守りながらテーブルなどの下に隠れる▽災害時に子を落ち着かせるジュースやお菓子は多めに用意▽いものから使って買い足すなど、子どもがいる家庭に役立つ内容となっている。冊子はA5判18ページ。1冊100円。

また、同プロジェクトは2月9日午後1時半～3時半、同市生涯学習センターで防災に関するイベントを開く。減災コンサルタントの水島重光さんらの講演のほか、冊子編集者らによるシンポジウムを行う。参加費は一世帯300円。事前申し込み不要。

冊子、イベント代表合わせはプロジェクト代表の青木八重子さん（090・3577・4654）。イベント詳細はNPO法人「パートナーシップながれやま」のホームページで。

子育て世代の防災・減災ノート完成！　流山

結成5年目を迎える「流山子育てプロジェクト（青木八重子代表）」では、このほど、子育て世代を対象にした「私にもできる　防災・減災ノートIN流山」を完成させた。

同市男女共同参画主催の保育付き講座「わたしへのごほうび講座」の修了生と、講座企画・運営を担当した「NPO法人パートナーシップながれやま」とで発足したこのプロジェクトは、現在、子育て中のママ13名が、いきいきと子育てのできる環境の整備や、地域参加・参画する街づくりを目指して活動中だ。

代表の青木さんは、東日本大震災で危機管理の意識がほとんどなかったことを痛感。「あの日はとても不安だった。でもその不安が何から起因しているのかがわからなかったため、真剣に向き合ってみようと思ったのがノート作成のきっかけ。小さな子どものいる家庭では何を備えたら良いのかを考えてみた」と女性ならではの目線で考えた内容を盛り込んだという。「その人自身の使い方で各家庭でのマニュアルにしてほしい」と広くアピール。1冊100円（送料別）。HPで入手可能。http://pns-nagareyamainfo/

代表の青木さん（左から2番目）と「流山子育てプロジェクト」のみなさん

1冊100円の記入式ノート▶

主催・野田市共催）。全国から7市町村の代表が集い、交流。

当日は、羽生善治三冠の記念講演も行われ、来場した多くの将棋ファンが耳を傾けた。羽生三冠は、小学2年生のころから将棋の大会やイベントに参加し、そこでルールやマナー、挨拶などを覚えたと、

歴史館へ見に行こう！

2.9子育て世代の防災・減災フォーラム
～いざという時、X時間を生き抜くために～会場風景

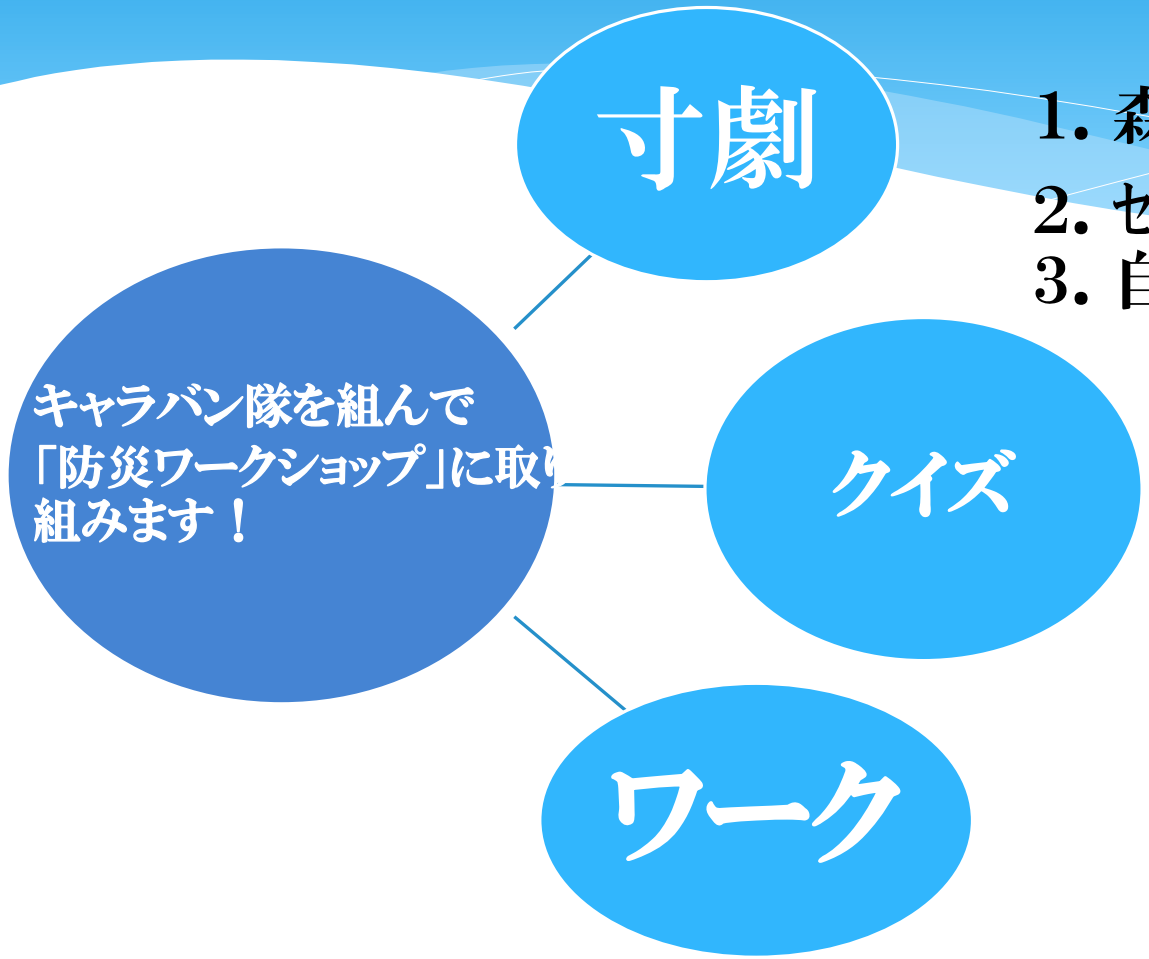
「子育て世代の防災・減災フォーラム」の評価

１．参加者27名が参加

２．アンケートによると、参加者の満足度90点以上が９０％。
80点以上が100％であり、ほぼ参加者全員が満足という回答。
→　子育て世代の防災に対する興味・関心は非常に高い

３．アンケートフリーアンサーから
→　・コミュニティ作りが大切だと思った
・専門的な意見が聞けた
・もっと時間が欲しかった。
・子ども連れの避難生活が不安、意識はあっても防災グッツの準備が震災直後にやったままであった
・防災に男女が共に活動することの大切さがわかった
・災害弱者もストレスを感じない環境の街づくりをしたい

防災キャラバン隊



1. 森のアトリエ黎明
2. セントラルパーク祭り
3. 自治会など

市内各所で
防災減災ノートの
活用と普及に
取り組みます！